

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 10月

「罪を負われる神聖なお方」「恵みに成長」「ふるい」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「罪を負われる神聖なお方」

4

朝のマナ

「恵みに成長」

7

神の驚くべき恵み

現代の真理

「ふるい」

39

最後の出来事

力を得るための食事

「ブルーベリータルト」

48

お話コーナー

「栄光に先だつ恵み」

50

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2012年9月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: istock on front cover;

Comstock on page 39

Printed in Japan

神のみ言葉を語ろう

キリストの教えと説教の主題は、神のことばであった。イエスは質問する人に、「……と書いてある」「聖書に何とあるか」「あなたはどうか読むか」などとおおせになった。興味をもった人があれば、それが友であろうと敵であろうと、彼はみことばの種をまかれた。道であり、真理であり、命であり、みずから生きたことばであられるイエスは、聖書を指さして、「この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と言われた。「モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた」(ヨハネ 5:39, ルカ 24:27)。……

彼は、神のみことばが、すべての者によって理解されるべきであることをお教えになった。キリストは、聖書が疑問の余地のない権威書であることを指摘されたが、わたしたちもそうすべきである。聖書は、無限の神のことばであって、あらゆる論争の解決とすべての信仰の基礎であることを示すべきである。……

神のみことばを人びとに語ろう。これまで、伝説と人間の説と戒めばかりを聞いてきた人びとに、心を新たにして、永遠の命にいたらせる神の声を聞かせよう。

キリストが好んで語られた主題は、神の父親としての情深さとあふれる恵みであった。彼は、神の品性と神の律法の神聖さについて多く語られた。また、ご自分が、道であり、真理であり、命であると人びとにいわれた。これが、キリストの牧師たちの主題でなければならない。イエスの中にあるがままの真理を伝えなさい。律法と福音が要求しているものを明らかにしなさい。キリストの克己と犠牲の生活、彼のけんそんと死、彼の復活と昇天、彼の天の宮廷での彼らのためのとりなし、「またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」という彼の約束などについて語りなさい(ヨハネ 14:3)。

キリストの実物教訓 15-17

わたしたちの罪を負われる神聖なお方キリスト

罪を負われる神聖なお方

不従順を通して、アダムは墮落した。神の律法が破られた。神聖な統治は辱められた。そして正義は不法の刑罰が支払われることを要求した。

人類を永遠の死から救うために、神の御子が自発的に不従順の刑罰を負われた。天の君の屈辱によってのみ、恥辱が取り除かれ、正義が満足させられ、人が不従順によって失ったところまで回復され得るのであった。他に方法はなかった。なぜなら、御使がこの地上に来て、アダムがつまづき、倒れた立場を経ても十分ではないからである。これでは、罪のしみを一つも取り除くことはできず、あるいは恩恵期間を一時間でも人類にもたらすことはできなかった。

神と等しく、御父の「栄光の輝きであり、神の本質の真の姿」の輝きであられるキリストは、ご自分の神性に人性をまわれ、この地上に来られて苦しみ、人類ために死なれた。神のひとり子はおのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。ご自分の体に罪ののろいを負われることによって、このお方はすべての人の手に届くところに、幸福と不死をおかれた。

全天にあがめられているお方がこの世に来て、人性をとって人類の頭として立たれ、墮落した天使や墮落していない諸世界の住民たちに、提供された神聖な助けを通して、すべての者は神のご命令への従順の道を歩むことができることを証された。神の御子は神の愛をわがものと主張することのできない人々のために死なれた。わたしたちのために、このお方はサタンがご自分にもたらすことのできるあらゆる苦しみを受けられた。

驚くべき一人が把握するにはあまりに驚くべき一ものは、過去のすべての犠牲のうちに、また型としての聖所のすべての奉仕に影として表されていた、わたしたちのための救い主の犠牲である。そしてこの犠牲が要求されていたのである。わたしたちが自分たちの永遠の安寧を確保するためには、このお方の苦難が必要であったことを悟るとき、わたしたちの心は動かされ、溶かされる。このお方は

神の正義の要求が満足し、神の律法の高尚な清潔さに調和した方法でわたしたちの十分な救いを成し遂げると自ら誓われた。

御父のひとり子ほど聖なる者でなければ、だれもすべての人を一最も罪深く、墮落した者でも救い主を自分の贖罪として受け入れ、天の律法に従順になる者を一清めるのに十分な犠牲を捧げることはできなかった。これ以下では、人を神の恩寵へ復帰させることはできなかった。

キリストは敵の手からとりこを奪うどのような権利をもっておられたのであろうか。それは天の王国が統治させていた正義の原則を満足させる犠牲を払われた権利であった。このお方は失われた人類の贖い主として、ずる賢い敵を征服し、正しいことに対するご自分の堅固な忠誠によって、自分たちの救い主としてご自分を受け入れるすべての人を救うために、この地上に来られた。カルバリーの十字架上で、このお方は人類の贖いの代価を支払われた。このお方はこのようにして大敵、すなわち嘘によって、神の統治に敵して企て、人類の墮落を引き起こし、こうして神のとこしえの栄光の王国の忠実な臣民だと呼ばれる一切の権利を失った者の支配からとりこを奪う権利を得られたのであった。

わたしたちの贖い代はわたしたちの救い主によって支払われた。だれもサタンによって奴隷にされる必要はない。キリストはわたしたちの前に力強い助け主としておられる。「イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである」（ヘブル 2:17, 18）。

「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。……そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。……めぐみとまことに満ちていた。……わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」（ヨハネ 1:11-16）。

神の家族に養子とされた人々はこのお方の御霊によって変えられる。自己放縦と自己への最上の愛は、自己否定と神への最上の愛に変えられる。だれも聖潔を生まれながらの権利として受け継ぐ者はないし、また自分の考案した方法によって、神に忠誠な者となることもできない。キリストは「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」と言われる（ヨハネ 15:5）。人間の義は「汚れた衣」

のようである。しかし、神にあつてはすべてのことが可能である。贖い主の力によって、弱く過ちの多い人間が自分からみつゝ悪に勝ち得てあまりある者となることができる。

セクテッド・メッセージ 1巻 308-310

神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



10月 「恵みに成長」

イエスが成長されたように

「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあつた。」(ルカ 2:40)

天の大君、栄光の王なるキリストは、ベツレヘムに生まれ、しばらくの間は、母親に世話される無力な赤ん坊のひとりとなられた。イエスは、子供のころは子供のように話し、また行動され、また両親を敬い、両親の希望を実行して彼らを助けられた。しかし知性が目ざめてからは、恩恵と真理の知識の中に成長をつづけられた。

親や教師は、少年少女たちが人生の各段階において、庭の植物が自然に花を開いて、その時期にふさわしい美しさをあらわすように、彼らの傾向を指導するように心がけるべきである。(教育 113)

子供としてイエスは、特にやさしい性質をあらわされた。彼はいつでも人に仕えるためによく手で手をかされた。イエスは何ものにもさまたげられない忍耐力と、決して正直さを犠牲にするようなことのない真実さをあらわされた。主義においては岩のように固かったが、その生活には無私の親切心という美德があらわれていた。

イエスの母は、深い関心をもってイエスの能力のあらわれを見守り、イエスの品性に完全の刻印を見た。彼女はよくこんで、このりこうなもののわかりのよい頭脳を力づけようとした。彼女は、神だけをわが父と呼ぶことのできるこの子供の発達に、天と協力する知恵を、聖霊を通して受けた。……彼女の口と預言者たちの巻物から、イエスは天の事物について学ばれた。イスラエルのためにご自身がモーセにお語りになったことばを、イエスはこんどは母のひざもとで教えられた。……イエスの前には、神の創造のみわざというすばらしい書庫がくりひろげられていた。万物をおつくりになったおかたが、ご自分の手で地と海と空にお書きになった教えを学ばれたのである。……天使たちがイエスのそばにつきそっていたので、聖なる思想と霊的なまじわりという教養がイエスのものとなった。知性が芽ばえはじめてから、イエスはたえず霊的な恵みと真理の知識に成長しておられた。

どの子供もイエスと同じように知識を得ることができる。われわれがみことばを通して天父をよく知ろうとつとめるとき、天使たちがそばにきて、われわれの知能が強められ、われわれの品性が高められ、洗練される。われわれはますます救い主に似る者となる。(各時代の希望上巻 59～63)

成長における神聖な順序

「地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。」(マルコ 4:28)

このたとえを語られたイエスが、小さい種をつくり、それに活力を与え、その生長の法則をお定めになった。しかも、たとえが教える真理は、イエスご自身の生活の中に生きた現実となってあらわれていた。彼は、肉体においても、霊性においても、植物が示している生長の法則に従っておられた。そして、世のすべての青年たちも、その通りに従うことを望んでおられる。……子供時代には従順な子として家業に従事し、その成長のどの段階においても完全で、罪のない人として、単純な、かぎり気のない美德をもっておられたのである。(キリストの実物教訓 62)

種のたとえは、神が自然界に働いておられることを示している。……種には命があり、土には力がある。しかし無限の力が昼となく夜となく活動していなければ、種は、実を結ばない。……どの種の発芽も、どの植物の成長も、みな神の力によるのである。

種の発芽は、霊的命の発生を示し、作物の成長は、クリスチャンの成長の姿を美しく象徴している。自然界と同様に恩恵の世界でも、成長がみられなければ命があるとはいえない。作物は、成長するか、枯れるかのどちらかである。作物は、黙々と、人知れず、成長し続けるが、クリスチャン生活の成長もそれと同様である。成長中のどの段階においても、わたしたちの生命は完全であり得るのである。しかし、神がわたしたちのために備えられた目的を達成するためには、継続的に前進する必要がある。きよめは一生の仕事である。わたしたちの機会が増加するにつれて、経験も広くなり、知識も加わるのである。そして次第に重い責任を負うことができるようになり、特権が与えられるにつれて、ますます円熟するのである。

苗木は、その生命をささえるために神がお備えになったものを受けて、成長するのである。苗木は地中に根をおろし、日光を浴び、露や雨にうろおされる。空気中から生命をささえる養分を受ける。それと同じように、クリスチャンも神がお備えになるものを受けて成長しなければならない。……苗木が地の中に根をおろすように、わたしたちは、キリストの中に深く根をおろさなければならない。また、苗木が太陽の光や露や雨を受けるように、わたしたちも、心を開いて、聖霊を受けなければならない。……キリストをわたしたちの個人的救い主と仰いで信頼することによって、わたしたちは、すべてのことにおいて、わたしたちのかしらであるキリストのように成長するのである。(同上 43, 45, 46)

どのように成長するか

「そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。」(ペテロ第二 3:18)

イエスのうちに育つとき、霊的恩恵と知識に進むことが、若い人々の特権である。興味をもって聖書をさぐり、そこに示されている真理と義の道に従うとき、わたしたちはイエスをもっとよく知ることができる。たえず恩寵のうちに成長する者は、信仰に堅く立って前進する。

イエス・キリストの弟子たることを志す青年はみなキリストの協力者となり、クリスチャンの最高の標準に到達しようとの熱意を心のうちに持たなければならない。神のみ座の前にとが無く立ち得る者の仲間にはいることをめざすとき、その人はたえず進歩する。堅固な立場を維持する唯一の道はきよい生活に日々進歩することである。疑惑や障害と戦って勝利するとき、信仰が増し加わる。真の聖化は漸進的である。イエス・キリストの恩恵と知識の中に進むとき、わたしたちはあらゆる特権と機会を活用して、キリストの生涯と品性についてますます知識を得るようになる。

キリストのけがれの無い一生と限りない愛を深く心に思い、一層よく救い主を知るにしたがって、イエスを信じるわたしたちの信仰は成長する。キリストの弟子たることを告白しながら、キリストとの間にへだたりをもち、キリストの聖霊によって養われないことくらい、神をはずかしめることはない。恵みのうちに成長するとき、宗教的な集会に出るのが好きになり、会衆の前でキリストの愛について喜んであかしをするようになる。神は、その恵みによって若い人々を思慮深くし、ご自分の子らに知識と経験をお与えになる。彼らは日々恵みのうちに育つことができる。信仰を感情で測ってはならない。(青年への使命 115, 116)

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエス」に目を注ぎ続けるかぎり、わたしたちは安全である(ヘブル 12:2)。わたしたちの愛情を地上のものに向けず、上なる天のものに注がなければならない。キリストの恵みによって得られる高さまで、わたしたちは信仰によって到達しなければならない。日々キリストの比類なき美しさを瞑想することによって、キリストの輝かしいみ像に成長しなければならない。このように天との交わりの中に生活しているとき、サタンがどんなにわたしたちを捕えようと網を張ってもむだである。(同上 97)

クリスチャンの成長の条件

「わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、……イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。」(ピリピ 1:9～11)

生命があるところには成長と成果があるが、わたしたちが恵みのうちに成長しないかぎり、わたしたちの霊性は成長を妨げられ、病弱で実を結ばない。わたしたちがわたしたちのための神のご目的を成就することができるのは、成長し実を結ぶことによつてのみである。「あなたがたが実を豊かに結ぶ」ぶ……「ならば、それによつて、わたしの父は栄光をお受けになるであろう」と、イエスは言われた(ヨハネ 15:8)。多くの実を結ぶためにわたしたちは自分たちの特権を最大限に生かさなければならぬ。力を得るためにわたしたちに与えられているどの機会をも用いなければならぬ。

純潔で高貴な品性はその素晴らしいすべての可能性と共にすべての者のために備えられている。しかしそのような品性を切望する熱心さのない者が多くいる。彼らは善を持つことができるために悪から離れることに気乗りがしない。……彼らは自分たちを神と調和させる祝福をつかむのを怠る。……彼らは成長することができない。

成長のための神のご計画の一つは、分け与えることである。クリスチャンは他の者を強くすることによって力を得るべきである。「物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される」(箴言 11:25)。これは単なる約束ではなく、神の律法、すなわち神がそれによつて慈愛の流れが絶えず循環し、非常に深い流れの水のように、絶え間なくその源に流れ返ることを計画しておられる律法である。この律法の成就の中に霊的成長の秘訣がある。……

もしわたしたちが信仰をもって神のところに来るなら、このお方はわたしたちを受け入れ、完全に向かつて上るために力をわたしたちにお与えになる。もしわたしたちが自分たちを信頼してくださるお方を辱めることは何もしないようにすべての言葉と行動を見張るなら、もしわたしたちが自分たちに与えられたすべての機会を活用するなら、わたしたちはキリストにある男女の満ち満ちた徳の高さに成長する。……

クリスチャンがたよ、キリストがわたしたちのうちにあらわされているであろうか。わたしたちは簡単に弱ってしまわない体、自己の向こう側にあらゆる行為の原因と結果を見て、困難な問題と格闘しこれに打ち勝つことのできる思い、悪に抵抗し正義を守ることに堅固な意志を得るために、すべて力をつくしてなしているであろうか。わたしたちは自己を十字架につけているであろうか。わたしたちは十字架の良き兵士として困難に耐える準備をしつつ、キリストにある男女の満ち満ちた徳の高さに成長しているであろうか。(サインズ・オブ・タイムズ 1901年6月12日)

神秘的な力

「すべてこれを見る者はこれが主の祝福された民であることを認める。」(イザヤ 61:9)

贖いの計画の中には、人間の思いが推測できず、人間の知恵が説明できない神秘があるが、自然は信心の奥義に関してわたしたちに多くのことを教えることができる。どの灌木も、実を結ぶどの木も、どの植物もわたしたちの研究のための教訓である。種の成長の中に神の王国の神秘を読むべきである。太陽、月、星、木々、野の草花は、神の恵みによって和らげられた心に勧告の言葉を語る。……

自然界は自然界のための神の律法に従う。雲と嵐、太陽と夕立、露と雨、すべては神の管理の下にあり、このお方のご命令に従順に従う。穀物は神の律法に従って地にぱつと若芽を出し、「初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる」(マルコ 4:28)。実はつぼみの中に見られる。そして主は、実がご自分の働きに抵抗しないので、季節に従ってそれを発育させてくださる。……

神のかたちに造られ、理性と話す能力を与えられた人間だけが、神の賜物を認めず、このお方の律法に従順であるということがあり得るであろうか。……

神は、わたしたちが自然から従順の教訓を学ぶようにと望んでおられる。……自然と、書かれた御言の本は互いに光を注いでいる。どちらも神のご品性をわたしたちに教え、このお方が働かれる律法についてわたしたちを教えることによって、わたしたちが神をもっとよく知るようにさせる。(教会への証 8 巻 326 ~ 328)

奇跡を働かれる神の力について子供たちに教えなさい。彼らが自然の偉大な教科書を研究するとき、神は彼らの心に感銘を与えて下さる。農夫は土地を耕し、種をまくが、その種を生長させることはできない。彼は人間の力ではできないことを神がしてくださるように頼らなければならない。主は、命へと芽を出すご自分の生命力を種の中にお入れになる。このお方の世話の下、命の胚種は自分を包んでいた堅い殻を破り、実を結ぶために芽を出す。……神が種のためになさる働きを子供たちに話すと、彼らは恵みの内に成長する秘訣を学ぶ。(両親、教師、生徒への勧告 124, 125)

子供時代から

「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」(マルコ 10:14)

イエスはご自分のもとにつれてこられた子供たちのうちに、主の恵みの相続人またキリストのみ国の民となる男女をごらんになった……。イエスはお教えになるとき、子供たちの水準にまでくだられた。天の君であられるイエスは、子供たちの質問に答えることや、大切な教訓を彼らの幼稚な理解力に向くようにわかりやすくすることをおろそかにされなかった。イエスは彼らの頭に真理の種をうえつけられたが、それは後年になって芽を出し、永遠の生命にいたる実を結ぶのであった。

子供たちは今でも福音の教えを最も素直に受け入れる。彼らの心は天来の感化力に対して開かれ、受けた教訓を堅くもちつづける。小さい子供たちは、それぞれの年令にふさわしい経験をもったクリスチャンとなることができる。彼らを霊的な事から教育する必要がある。両親は、子供たちがキリストのご品性に型どって品性を形成するように、あらゆる便宜を彼らに与えねばならない。……

クリスチャンの働き人は、こうした子供たちを救い主に引きよせるのに、キリストの代理人となることができる。彼は知恵と機知とによって、彼らを自分の心に結びつけ、……キリストの恵みによって、彼らの品性が一変し、その結果彼らについて「天国はこのような者の国である」と言われるようにすることができるのである(マタイ 19:14)。(各時代の希望中巻 320, 321, 325)

神は幼い年齢の子供たちがだれでもご自分の子となり、ご自分の家族の養子となることを望んでおられる。彼らは若くても信仰の家族の一員となることができ、最も尊い経験を持つことができる。……彼らはイエスへの信頼と愛を引き出された心を持ち、救い主のために生きることができる。(両親、教師、生徒への勧告 169)

救い主は若者を救うことを切望しておられる。このお方はご自分の御座のまわりに彼らのご自分のシミのない義の衣を着て、立っているのを見てお喜びになる。このお方は彼らの頭に命の冠をのせ、天の宮廷中にこだまする勝利の賛美の中で、神と小羊に名誉と栄光と権威を帰している中に加わる彼らの幸福な声を聴こうと待っておられる。(同上 48)

家庭で

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。」(詩篇 127:1)

神は地上の家族が天にいる家族の象徴になるようにと計画しておられる。神のご計画に従って設けられ、導かれたクリスチャン家庭は、クリスチャン品性の形成とこのお方のみ働きを前進させるのに最も効果的な手段である。(教会への証 6 卷 430)

家庭生活の重要性やその機会がイエスの生涯のうちに実証されている。わたしたちの模範となり、教師となるために天からおいでになったイエスは、ナザレにおいて家庭の一員として 30 年の歳月を送られた。(ミストリー・オブ・ヒーリング 323)

このお方の母親が最初の人間の教師であった。彼女の唇から、預言者の巻物からこのお方は天来の事柄を学ばれた。彼は貧しい家庭に住み、家族の重荷を負うにあたって、ご自分の役割を忠実に快活に果たされた。このお方は天の司令官であり、天使たちはそのご命令を果たすことを非常に喜んでいたのであるが、今このお方は快く行く僕、愛情に満ちた、従順な息子であった。……

このお方はこのように準備して、人々との交わりのどの瞬間にも、世が証をしたことがなかったほど、彼らを祝福するために感化力を及ぼし、変えるために力をお使いになった。(教会への証 8 卷 222, 223)

あなたの家庭を、キリストが客として入られ、宿られるところにしなさい。あなたがイエスと共におり、このお方に学んでいたことを、人々がわかるようにしなさい。……

天のみ使いたちは、神のご意志が影響力を及ぼす家庭をしばしば訪問する。そのような家庭は神の恵みの力の下で弱り、疲れ果てた旅人を元気づける場所となる。自己はそれを言い張ることから守られ、正しい習慣が形づくられる。他人の権利を注意深く認める。愛によって働き、魂を純潔にする信仰は、家族全体を統括しつつ、実権を握る。(信仰によってわたしは生きる 254)

あなたのキリスト教のはかりは、あなたの家庭生活の品性によって正確に評価される。キリストの恵みはそれを持つ者が家庭を幸福な場所、平安と休息の場所にすることを可能にする。(今日のわたしの生涯 102)

天来の恵みの光があなたの品性を照らし、それによってあなたの家庭に日光があるようにしなさい。(同上)

不可欠な日々の祈り

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ 9:23)

神に受け入れられる品性を養いたいと思うなら、信仰生活に正しい習慣が形成されなければならない。肉体の健康のためにこの世の食物が必要であるように、日々の祈りは、恵みの中に成長するためにも、また霊的生命そのものためにも必要である。たびたび祈って、自分の思いを神にまで高める習慣をつけなければならない。もし思いがさまよっていたら、それを呼び戻さねばならない。忍耐強く努力することによって習慣がつけば、それはついには容易になる。一瞬間でもキリストから離れたら安全ではない。キリストが自らお定めになった条件を守るときにだけ、キリストはわたしたちの歩みの一步一步に同伴してくださる。

宗教を一生の大事業としなければならない。その他のことはすべてこれに従属させねばならない。魂と肉体と精神のすべての力がクリスチャンの戦いに集中されなければならない。キリストを仰いで力と恵みを求めなければならない。そのときわたしたちは、イエスが確かにわたしたちのために死なれたのと同じように確実に勝利することができる。(青年への使命 108, 109)

愛する青年方よ、敵がどんな形で誘惑してもこれに抵抗できるように、一日の初めにあたって、キリストの力と恵みを熱心に祈ることを忘れてはならない。くだけた心と信仰をもって熱心に祈るとき、神はその祈りをきいてくださる。しかし祈るとともにまた目をさましていなければならない。……

若い人たちも小さい子供たちも、重荷や苦しみを持ったままイエスのみもとに行くとき、イエスは、彼らの訴えを心に留め、彼らが必要とするものをお与えになるということを知ることができる。熱心になりなさい。断固たる者となりなさい。神の約束をかぞえあげて、これを疑うことなく信じなさい。主が答えてくださると考える前に、何か特別な感情が起るのを待つてはならない。神にお願いしたものをいただくことができると信じる前に、神が自分のために働いてくださる一定の方法をきめてはならない。ただ神のみことばに信頼して万事を神のみ手にゆだね、神は必ず自分の祈りをみ心に留め、自分のために最もよいとお思いになる時期と方法を通してお答えになることを心の底から信じ、またその祈りを実行しなさい。けんそんに歩み、たえず前進をつづけなさい。(同上 116, 117)

必要な密室の祈り

「主とそのみ力とを求めよ。つねにそのみ顔をたずねよ。」(歴代史上 16:11)

祈りとは、友だちに語るように、心を神に打ち明けることである。これはなにものもわたしたちがどんなものであるかを神に知らせる必要があるからではなく、わたしたちが神を受け入れるのに必要だからである。祈りは、神をわたしたちにまで呼びおろすのではなく、わたしたちを神の許へひき上げるのである。(キリストへの道 126, 127)

ひそかな祈りの場所を持ちなさい。イエスは神とのまじわりの場所をきめておられたが、わたしたちもそうすべきである。わたしたちは、どんなさきやかな所でもよいから、ただひとり神と共にいることのできる場所へたびたび退く必要がある。……

神のほかだれの目も見ることができず、彼のほかだれの耳も聞くことのできないひそかな祈りの場所で、わたしたちは心の奥底にひそむ願いや望みを無限のあわれみに富んでおられる父に注ぎ出せるのである。こうして、心が静まっている時に、助けを求める人間の叫びに必ずお答えになるあのみ声が、わたしたちの心に語りかけてくださる。……

わたしたちは、キリストを日々の友とするとき、見えざる世界の力に囲まれているのを感じ、イエスを見つめることによってそのみかたちに似た者となるのである。見ることによってわたしたちは変えられる。品性は天のみ国にふさわしく和らげられ、きよめられ、高められる。主と接して交わるときそこには必ず敬虔と純潔と熱意が増し加えられる。祈りを通してさとりが増し加わる。わたしたちは天の教育を受けているのであって、生活に勤勉と熱意が現わされてくるのである。

日々真剣な祈りによって神を仰ぎ、助けとさきえと力を求める魂は、けだかい抱負を持ち、真理や義務についての明確な認識が与えられ、行動の目的も高められ、たえず義に飢え渴くようになる。わたしたちは神との結びつきを保つことによって、人々に接するときに自分の心を支配している光と平和と落ち着きとを、彼らのうちにひろめることができる。祈りによって与えられる力と人間の思慮深さを養おうとするたゆまぬ努力とによって、人は毎日の義務を行なう力が与えられ、どういう立場に置かれても心の平静を保つことができるようになる。(祝福の山 103 ~ 105)

宗教は心を空にし、純潔にして始めなければならず、日ごとの祈りで栄養を与えられなければならない。(教会への証 4 巻 535)

絶えまない働き

「神のみこころは、あなたがたが清くなることである。」(テサロニケ第一 4:3)

聖化は一瞬、一時間、あるいは一日の働きではない。それは恵みの内にある絶えまない成長である。わたしたちは次の戦いがどれほど強力なものとなるか一日もわからない。サタンは生きており、活動的なので、わたしたちは彼に抵抗するために、毎日神に助けと力を求めて熱心に叫ぶ必要がある。サタンが君臨している限り、わたしたちには征服すべき自己があり、克服すべきからみつく罪がある。そして、とどまる場所も、自分たちが完全に到達したと言える地点もない。……

クリスチャンの生涯は絶えず前進する進軍である。イエスはご自分の民を精練し純潔にするお方として座しておられる。このお方のかたちが彼らの内に完全に反映されるとき、彼らは完全に聖なる者となり、移される準備ができる。大いなる働きがクリスチャンに要求されている。わたしたちは神をおそれて聖潔を完成しつつ、肉と霊のあらゆる汚れから自分自身を清めるようにと熱心に勧められている。ここでわたしたちは大いなる働きがかかっているのを見る。クリスチャンには絶えまない働きがある。(教会への証 1 巻 340)

だれひとりとして、神の事柄において日ごとに経験をもち、日々克己を実践し、快く十字架を負ってキリストに従うのでない限り、生けるクリスチャンではない。すべての生けるクリスチャンは聖なる生涯で日々前進する。彼が完全に向かって前進するとき、神への改心を毎日経験する。そしてこの改心は、彼がクリスチャン品性の完全に到達し、不死の最後の一触れの準備が十分に整うまで完成しない。……

宗教は単なる感情や感覚ではない。それは日ごとの義務や生活の営みのすべてに織り込まれた原則である。……それは天のために品性を形づくる善行が継続することである。(教会への証 2 巻 505 ~ 507)

わたしたちは日々、時々、刻々キリストのために生きなければならない。そのとき、キリストはわたしたちの内にお住みになる。そしてわたしたちが共に会うとき、このお方の愛はわたしたちの心にあり、すべてのものを元気づけ、滅びるばかりの人々に命の水を飲みたいと思わせる砂漠の中の泉のようにわきあがっている。(教会への証 5 巻 609)

単純に信頼する信仰を通して

「わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスにある信仰と愛と共に、ますます増し加わってきた。」(テモテ第一 1:14)

神の知識と愛のうちに前進しつつ、絶えず恵みに成長するのはあなたの特権である。もしあなたがキリストとの麗しい交わりを維持するなら、楽しむのはあなたの特権である。へりくだった信仰の単純さで、あなたが主の御言の尊い事柄を識別し感謝することができるために、あなたの理解力を開いてくださるようと、このお方に求めなさい。このようにしてあなたは恵みに成長し単純に信頼する信仰に成長する。……

あなたの霊的な命が、みじめで病弱な役に立たないものにならないようにしなさい。クリスチャンの言葉と模範を必要としている人がたくさんいる。弱さと優柔不断は敵の攻撃を引き起こす。そして霊的な成長、すなわち真理と義の知識において成長しない者はたびたび敵に打ち負かされる。(わたしたちの高い召し 279)

本物の信仰は常に愛によって働く。あなたがカルバリーを見るとき、それによって義務の不履行のうちにあなたの魂をしずめたり、あなたを眠りに陥らせたりすることはなく、かえってイエスを信じる信仰、すなわち利己心というヘドロから魂をきよめて働く信仰を創造するのである。わたしたちが信仰によってキリストをつかむとき、わたしたちの働きは始まったばかりである。だれにでも激しい戦いによって打ち勝たなければならない堕落した罪深い習慣がある。どの魂も信仰の戦いを戦うよう要求されている。もしある人がキリストに従う者であるなら、商取引においてずる賢くあったり、冷酷であったり、同情に欠けていたりすることはできない。……彼は横柄であったり、厳しい言葉を用いたり、非難やとがめだてをすることはできない。(S DA パイブル・コメンタリ [E.G. ホフ・コメント] 6 巻 1111)

信仰が、ヤシの木のように、見えているものの下にまでその根を貫き、神の恵みとあわれみの生ける泉から霊的な活気づけを得るようにしなさい。永遠の命に湧き上がる水の井戸がある。あなたはこの隠れた井戸からあなたの命を汲まなければならない。もしあなたが利己心を捨て、あなたの魂を神との絶えまない交わりによって強めるなら、あなたが接するすべての人の幸福を促進することができる。あなたは無視されている人に注意を払い、無知な人に教え、圧迫され失望している人を励まし、苦しんでいる人をできるだけ楽にさせる。そして天への道を指し示すだけでなく、あなた自身その道に歩む。(教会への証 4 巻 567)

キリストの内に宿る

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

なにか自分だけでしなければならぬことがあると考えている人がたくさんいる。かれらは、キリストに頼って罪のゆるしを得ているが、正しい生活を自分の力で送ろうとするのである。しかしそうした努力はみな失敗に終る。イエスは「わたしから離れては、あなたは何一つできない」と仰せになる。恵みに成長することも、わたしたちの喜びも人のために役だつこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっている。恵みに成長するのは、毎日、毎時、かれと交わり、かれにあることによる。キリストは、わたしたちの信仰の導師であると同時に、これを全うしてくださる方である。キリストは、始めてあり終りであり、つねにおられるのである。であるからわたしたち旅路の始めと終りばかりでなくその道すがら一步一步、キリストにいていただかねばならない。ダビデは「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない」(詩篇 16:8)と言った。

「いったいどうすれば、キリストにおることがのできるものであろうか」と尋ねるひとがあるが、それは最初に主を受け入れたときと同じようにしたらよいのである。「あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」(コロサイ 2:6)。……あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのである。あなたは自分ではおのれの罪をあがなうことも、心を変えることもできなかった。しかし神におのれをささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになして下さったと信じたのである。信仰によってキリストのものとなったのであるから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのである。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることである。自分の心も意志も奉仕もすべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わねばならない。そして、服従する力をうけるには、あらゆる祝福に満ちあふれておられるキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとしてうけなければならない。……

自分の弱さはキリストの力に、無知はキリストの知恵に、もろさはキリストの持久力と一つになる。するとわたしたちは自分をながめて自分のことばかりを考えないで、キリストをながめるようになるのである。キリストの愛を瞑想し、その性格の美しさ、完全さを心にとめて考えよう。キリストの自己犠牲、キリストのへりくだり、キリストの純潔と聖潔、またその比類なき愛を魂の瞑想課題としよう。キリストを愛し、キリストにならぬ全くキリストに頼ってこそ、わたしたちはキリストのみかたちに変えられるのである。(キリストへの道 92～95)

体において、霊において

「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。」(ヨハネ第三 2)

神の子らへのこのお方のご目的は、彼らがキリストにある男女の満ちみちた高さに成長することである。彼らはこれをするために、思い、魂、体のどの力も正しく用いなければならない。彼らは知力や体力を浪費する余裕はない。

健康をどのように保つべきかという問題は最も重要な問題の一つである。わたしたちが神を畏れてこの問題を研究するとき、身体的にも霊的にも前進するためには、食事において単純さを守ることが最善であることを学ぶ。この問題を忍耐強く研究しよう。……

肉食、茶とコーヒー、濃厚で不健康な食物を準備する悪に関して教えられ、犠牲によって神との契約を結ぶと決心している者は、健康的でないと知っている食物への食欲にふけることを続けない。神は、食欲が清められ、良くないそれらのもに関して自己否定を实践するよう命じておられる。これはこのお方の民が神のみ前に完全になった民として立つことができる前に、なされなければならない働きである。……

神はご自分の民に絶えまない前進を要求なさる。わたしたちは、ほしいままにした食欲は精神的向上と魂の聖化を最も妨げるということを学ぶ必要がある。健康改革をこれほど公言していながら、わたしたちの内の多くの者が不適切に食している。食欲の放縦は身体と精神の衰弱の最も大きな原因であり、大いに弱さと若年死の原因となっている。霊的純潔を保つことを求めている一人びとりは、食欲を支配する力はキリストの内にあることを思いの中に抱いていよう。(教会への証 9 卷 153 ~ 156)

体の健康は恵みにおける成長と落ち着いた気質を得るために不可欠であると見なすべきである。……誤った飲食は結果として誤った考えと行動を生ずる。すべての者が今テストされ、試されている。わたしたちはキリストにあつてバプテスマを受けているので、もしわたしたちが自分を墮落させるあらゆることから離れることによって自分の分を果たすなら、……わたしたちの生ける頭であるキリストの内に成長する力が与えられ、わたしたちは神の救いを見る。(同上 160)

心を守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

油断することなくあなたの心を守ることは、恵みによる健全な成長に不可欠である。生まれつきの状態の心は清くない思いや罪深い激しい感情に慣れている。それをキリストの支配下に置くときには、御霊によってあらゆる汚れから清められなければならない。これは個人個人の同意なしにはなされ得ない。

魂が清められたなら、それが汚されないように守るのがクリスチャンの義務である。多くの者は日々の罪の放棄と魂を虜にしている習慣から自由になることを、キリストの宗教は呼びかけてはいないと考えているようにみえる。彼らは良心に咎められてあることを止めるが、日々の生活にキリストを表すことには失敗する。彼らはキリストらしさを家庭に持ち込まない。言葉を選ぶにあたり、思慮深い配慮を見せない。あまりにもしばしば、不機嫌な短気な言葉、人間の心に悪い感情を掻き立てる言葉が語られる。そのような人は魂にキリストに宿っていただく必要がある。このお方の力によってのみ、彼らは言葉と行為を守ることができる。……

多くの者が瞑想や聖書の探求や祈りに費やす時間を惜しむように見える。あたかもそのようなことに時間をとるのは損失であるかのように。わたしは、あなたがこれらのことを、神があなたに見せたいと思っておられる光の中で見ることができたらと願う。なぜなら、そのときあなたは天の王国を最も重要なこととするはずだからである。あなたの心を天に置き続けることは、あなたの行為すべてに活力を与え、すべての義務に命を与える。……運動が食欲を増して、体に力と健康な活力を与えるように、たびたび祈ることは恵みと霊的活力を増し加える。……

神に「わたしのために清い心を造ってください」との祈りを捧げよう。純潔で清められた魂にはキリストが宿ってくださり、心の豊かさから命の泉は流れ出るからである。人間の意志はキリストに譲られるべきである。利己的に心を閉ざして進む代わりに、神の御霊のかぐわしい感化力に心を開く必要がある。実践的な宗教はどこでもでも芳香を放つ。それは命から命に至らせる香りである。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初作・コメント] 3 卷 1157)

まず心を空に

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。(これが第一の戒めである。)第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ』。(マルコ 12:30, 31)

これら二つの戒めに道徳的存在者のいっさいの利益と義務がかかっている。他の人が自分にしてほしいと思う通りに他の人に自分の義務を行う者は、神がご自身を表わすことができになる立場に導かれる。彼らは神の是認を受ける。彼らは愛において完全にされ、彼らの働きと祈りは無駄にならない。彼らは源泉なるお方より恵みと真理を絶えず受け続ける。そして、惜しみなく他の人々に伝えるとき、彼らは神の光と救いを受けるのである。……

利己心は、神と聖天使の目に嫌悪をもよおす。この罪のゆえに多くの者は自分たちが享受できる善に到達するのに失敗する。彼らは自分自身の事柄を利己的な目で見、彼らが自分自身の関心事を行うほどには他人の関心事を愛し求めることをしない。彼らは神のご命令を逆にする。彼らが、自分のために他の人にしてほしいと望むことを他の人々のために行う代わりに、自分のために他の人々にしてほしいと思うことを自分自身のために行う。そして他の人々には、彼らが自分には最も返ってきてほしくないことを行う。(教会への証 2 巻 550, 551)

わたしたちが恵みに成長することは、どのようにして可能であろうか。神の型であるお方にかたどって造られるために、自己を空にし、それを天に差し出すときにのみ、それはわたしたちに可能である。わたしたちは生きた光の通路とつながることができる。わたしたちは天の露で活気づけられ、わたしたちの上に天の雨を注いで頂くことができる。わたしたちが神の祝福を感謝するとき、わたしたちはこのお方の恵みをもっと多く受けることができる。わたしたちが見えないお方を見ているように忍ぶことにより、わたしたちはキリストのかたちに変えられる。キリストの恵みはわたしたちを誇らせたり、自己を高ぶらせたりせず、心の柔和でへりくだった者とする。(SDA バイブル・コメント [E.G. 和訳・コメント] 7 巻 947)

恵みの内での成長はあなたを得意に、自信のある、自慢する者ではなく、あなた自身が無であること、あなたがまったく主に依存していることをますます気づかせる。(今日のわたしの生涯 104)

避けるべき罠

「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。」(ヨハネ第一 2:16)

自尊心と世への愛着は、恵みの内にある成長と霊性にとって非常に妨げとなる罠である。

この世はクリスチャンの天国ではなく、単なる神の仕事場、わたしたちが聖なる天で罪のない天使たちと結合するために整えられるための場所である。わたしたちは絶えず思いを気高く、無私の考えへと訓練し続けなければならない。この教育は、地上で神の御名が最高に栄光を帰せられるように神がわたしたちに与えて下さった力を働かせるために必要である。わたしたちは、神がわたしたちに与えておられる気高い資質すべてに対して責任がある。そして、これらの能力を神が決して計画されなかったような使い方をすることは、このお方への卑劣な忘恩を表わすことである。神の奉仕はわたしたちの存在すべての力を要求する。であるから、わたしたちがこれらの能力を高い状態へと育成し、天の事柄を考えることを愛するように思いを教育し、神の栄光のために働く正しい行為によって魂のエネルギーを強め、また気高いものとするのでなければ、神のご計画に忠えていることにならない。……

思いは宗教的な主題を熟考するよう教育されるまでは、この方面において無力で弱々しい。しかし世的な企てを熟考するときは、強くなる。なぜならそれはこの方面には啓発されており、訓練で力づけられているからである。男女にとって宗教的な生活を生きることがそれほど難しい理由は、思いを信心に向けて訓練しないからである。それは反対方向に走るよう訓練されている。思いが絶えず霊的な知識を得て、信心の奥義を悟ろうと求める限り、永遠の事柄を正しく理解することはできない。……心が分かたれているとき、主に世の事柄を熟考し、神の事柄をほとんど熟考しないと、霊的力の特別な増加はありえない。(教会への証 2 巻 187～189)

世俗の人々が世的な宝を確保するのに熱心かつ野心的である一方、神の民は世に従わず、熱心に自分たちが移される立場を待ち、見張ることによって、自分たちの家郷はこの世ではなく、より良い国、天国さえも求めていることを示す。(同上 194)

へりくだりにおいて

「謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」(ペテロ第一 5:5)

ヨハネの生活と品性にあらわれていたキリストへのひたむきな愛と無私の献身は、キリスト教会に口で言いあらわせない価値のある教訓を与えている。ヨハネは、のちの経験にあらわれているような美しい品性を生まれつき持っていたのではなかった。彼には生まれつきのひどい欠点があった。高慢で、身勝手な、名譽欲が強かったばかりでなく、激しい性質で、侮辱されると憤慨した。……。しかしこうしたすべてのもの下に、天来の教師イエスは、熱心で、誠実で、愛すべき心を認められた。イエスは彼の身勝手を譴責され、彼の野心をくじいて、信仰を試された。しかしイエスは、ヨハネの魂が求めていたもの、すなわち、聖潔の美、愛の改変力を彼にお示しになった。(患難から栄光へ下巻 242)

キリストの教えは、恵みに成長し、みわざにふさわしいものとなるために欠くことのできない柔和と謙遜と愛を説くもので、ヨハネに最も貴重なものとなった。彼は一つ一つの教えを大事にして、絶えず自分の生活を聖なる模範に一致させる努力をした。ヨハネはキリストの栄光を見分けはじめていた。彼がこれまで追い求めるよう教えられてきた世的なはなやかさや権威ではなく、「父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちて」いるものであった(ヨハネ 1:14)。……ヨハネはイエスのようになりたいと望んだ。そして、キリストの愛の人間を変える感化力のもとに、彼は柔和で謙遜になった。自己はイエスの中に隠された。(同上 246, 247)

主イエスは、主の恵みを伝えるのにさまたげるものがない水路となる人々の協力を求めることになる。……だれでも学ばねばならない第一のことは、自分に頼らないと言う教訓である。その時彼らはキリストの品性を与えられる用意ができる。これはどんなに科学的な学校の教育によっても得られないものである。それは天来の教師イエスからのみ得られる知恵の実である。……

科学や芸術において最高の教育を受けた人々が、世の人々から無学のレッテルを貼られているような卑しい身分のクリスチャンから尊い教訓を学んできた。しかしこれらの無名の弟子たちは、全ての学校の中の最高の学校で教育を受けたのであった。彼らは「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」といわれているキリストの足元に座ったのであった。(各時代の希望上巻 310～312)

親切さにおいて

「だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。」(コロサイ 3:12)

親切という法則があなたの唇にあり、あなたの心に恵みの油があるようにしよう。これは素晴らしい結果を生じ、あなたは優しく、思いやりがあり、礼儀正しくなる。あなたはこれらの恵みがすべて必要である。聖霊があなたの品性に受け入れられ、持ち込まなければならない。そのときそれは聖なる火のように、神の許へたちのぼる香を発する。それは責める唇からではなく、人々の魂を癒すものとしてたちのぼるのである。あなたの表情は神のかたちをあらわす。……キリストのご品性を眺めることによって、あなたはこのお方に似た者に変えられる。キリストの恵みだけがあなたの心を変えることができ、そのときあなたは主イエスのかたちを反映する。神はわたしたちが主のように清く、聖で、汚れのない者になるように求めておられる。わたしたちは神のかたちを帯びるべきである。……

主イエスはわたしたちの唯一の助け手であられる。このお方の恵みによって、わたしたちは愛を培い、親切に優しく語ることを自分自身に教育することを学ぶ。このお方の恵みによって、わたしたちの冷たく、厳しい態度が変えられる。親切という律法がわたしたちの唇にあり、聖霊の尊い感化の下にいる人々は、泣く者と共に泣き、喜ぶものと共に喜ぶことを弱さの証拠とは感じない。わたしたちは天来の品性の卓越さを培うべきである。わたしたちはすべての人々に好意を持ち、他の人々の生活における陰でなく日光のようであろうとの心からの願いを持つことが何を意味するかを学ばなければならない。(パイブル・メンタリ [E.G. ホット・コメント] 3巻 1164)

あなたの周りにいる人々とあなたの愛情を分かち合いつつ、彼らの幸福に寄与するすべての機会をとらえなさい。親切な言葉、同情深いまなざし、感謝の表現は、多くのものがいている孤独な人々にとって、渇いた魂への一杯の冷たい水のようなものとなる。……

救い主の愛の日光の中で生きなさい。そのときあなたの感化は、世を祝福する。キリストの御霊にあなたを支配していただき、親切の律法が絶えずあなたの唇にあるようにしなさい。寛容と無我が、キリストにある新しい命を生きるために新しく生まれる人々の言葉と行動を特徴づける。(教会への証 7巻 50)

わたしたちはせつに求めなければならない

「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることが求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで」(ホセヤ 6:3)

キリストは、人類家族に救いの道を教えるためにおいでになった。キリストは、救いの道をやさしくなさったので、小さな子供でもこの道を歩むことができる。キリストは、弟子たるわたしたちに、「せつに主を知ることが求めよう」と命じておられる。日々、神のみちびきに従うとき、「主はあしたの光のように必ず現れいで」たもうことがわかる(ホセア 6:3)。

あなたがたは、太陽がのぼって、地と空がだんだん明るくなっていくのを見たことがあるであろう。東の空が少しずつ赤味をまし、やがて太陽が現われる。すると、光はだんだん強く明るくなって、ついに真昼の明るさになる。神はご自分の子らが、この美しいたとえのように、クリスチャン経験を完成することを望んでおられる。神のすべてのご要求に心から服従し、日々に、神から送られる光のうちに歩むとき、わたしたちの経験は深く広くなり、やがてキリスト・イエスのうちに満ち満ちた男女の高さにまで成長するのである。……

キリストがこの世においでになったのは、王として国を治めるためではなかった。身分の低いお方としておいでになり、試みられて、これにうち勝ち、神を知ることにつとめられた。わたしたちもそうしなければならない。キリストの一生を研究してみると、神がどんなにキリストを通して子らのために尽しておられるかがわかる。同時にまた、わたしたちの試練がどんなに大きくても、それはわたしたちに道と真理と生命を知らせるためにキリストが耐え忍ばれたことには、はるかにおよばないことがわかる。キリストの模範に一致した生活を送ることが、わたしたちのために払われたキリストの犠牲に対する感謝を表わすことになるのである。(青年への使命 1, 2)

ちょうど、花が輝かしい光線の助けをかり、美しく咲こうとして太陽に向かうように、わたしたちも義の太陽を仰いで天の光に照らされ、わたしたちの品性がキリストのかたちに似るまでに成長しなければならない。……

木の枝が生長して実を結ぶのには、その幹に連なっていなければならないと同様に、きよい生涯を送るには、キリストに頼らねばならない。キリストを離れてはいのちも、誘惑を退ける力も、恵みと聖潔に成長する力もない。しかし、かれにおれば栄えるのである。キリストからいのちを受けるのであるから、しばむこともなければ、実を結ばぬこともなく、川のほとりに植えられた木のように茂る。(キリストへの道 91, 92)

イエスを映して

「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。」(エペソ 4:29)

わたしは栄光の望みが内にかたち造られるようにと、絶えずキリストを切望している。わたしは、キリストの柔和と優しさで毎日飾られ、キリスト・イエスにある男女の満ち満ちた高さに達するために、イエス・キリストの恵みと知識において成長し続けることを切望する。わたしは個人として、自分自身の魂を、このお方の恵みと愛と忍耐と柔和が世に流れ出る神聖な水路として守ることにより、イエス・キリストからわたしに与えられた恵みを通して、自分の魂を健康に保たなければならない。これはわたしの義務であり、神のむすこ娘であると公言するすべての教会員の義務でもある。

主イエスはご自分の教会を聖なる真理の保管者となさった。このお方は、ご自分がこれほどの関心、これほどの計り知れない愛を表しておられるその魂を救うために、ご自分の目的と計画を果たす働きを教会に残しておられる。わたしたちの世界に対する太陽のように、このお方は義の太陽として、道徳的な暗闇のただなかを昇られる。このお方はご自身のことを「わたしは世の光である」と仰せになり(ヨハネ 8:12)、ご自分に従う者に「あなたがたは世の光である」と仰せになった(マタイ 5:14)。イエス・キリストのかたちを映すことによって、自分たちの品性の美しさと聖なることによって、克己と大小にかかわらずすべての偶像から離れることによって、彼らは自分たちがキリストの学校で学んだ者であることをあらわす。(わたしたちの高い召し 247)

聖書にも、キリストには、「気品(恵み)がそのくちびるに注がれて」いたから「疲れた者を言葉をもって助けること」がおできであったとされる(詩篇 45:2、イザヤ書 50:4)。また、「いつも……やさしい言葉を使いなさい」(コロサイ 4:6)「聞いている者の益になるようにしなさい」(エペソ 4:29)と主はお命じになるのである。

人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。ことばは命に至る命の香りともなれば、死に至る死の香りともなる。……真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これがキリストのお働きなのである。(キリストの実物教訓 311, 312)

わたしたちが失敗するとき

「わが敵よ、わたしについて喜ぶな。たといわたしが倒れるとも起きあがる。たといわたしが暗やみの中にすわるとも、主はわが光となられる。」(ミカ 7:8)

神の力以外には何も人間の心を再生させ、キリストの愛を魂に吹き込むことはできない。この愛はこのお方がそのために死なれた人々への愛でそれ自身を常に明らかにする。御霊の実は愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制である。人が神に改心するとき、新しい道徳的な分別が提供され、新しい動機となる力が与えられ、彼は神が愛することを愛する。……愛、喜び、平和、そして言い表せないほどの感謝の気持ちが魂にたちこめ、祝福を受ける彼の言葉は、「あなたの助けはわたしを大いなる者とされました」となる(詩編 18:35)。

しかし罪に打ち勝つために自分の分として断固とした努力をしないで、自分たちの品性に不思議な変化を見ようと待っている者は、失望するであろう。わたしたちはイエスを見ている間、恐れる理由はない。このお方がご自分に来るすべての者を最高にまで救うことができになることを疑う理由はない。しかしわたしたちは、自分たちの古い性質が再び至上権を得て、敵が再びわたしたちを虜にするためのわなを何か考案するのではないかと、絶えず恐れるべきである。わたしたちは恐れおののいてわたしたち自身の救いの達成に努めるべきである。なぜならあなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神の良しとされるところだからである。……

わたしたちは日々霊的な美しさに成長すべきである。わたしたちは神の模範をまねる努力においてしばしば失敗する。わたしたちはしばしば自分たちの欠点と過ちのゆえに、イエスの足元にひれ伏して泣く。しかしわたしたちは失望すべきではなく、もっと熱烈に祈り、もっと十分に信じ、わたしたちの主に似た者へと成長するためにもっと断固として再び試みるべきである。わたしたちが自分の力を信頼しないとき、わたしたちの贖い主の力を信頼するようになり、わたしたちは自分たちの助けであり、わたしたちの神であるお方に賛美を捧げるのである。……

見つめることによってわたしたちは変えられる。そしてわたしたちが神なる模範である方の完全を瞑想するとき、このお方の純潔のかたちに変えられ、再び新しくされることを願う。品性の中に変化が生じ、怒りの子が神の子になるのは、神の御子を信じる信仰による。(ヘブレイク・メッセージ 1巻 336～338)

神のみ言葉を食する

「今わたしは、主とその恵みの言とに、あなたがたをゆだねる。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別されたすべての人々と共に、御国をつがせる力がある。」(使徒行伝 20:32)

偉大で不可欠な知識は、神とその御言の知識である。……霊的な理解が日ごとに増し加わるべきである。そしてクリスチャンは神の御言の教えに頼り、感謝し、神の事柄を瞑想するのに慣れる、ちょうどその割合に応じて恵みに成長する。(レビュー・アソド・ハラルド 1888年4月17日)

主のみ言葉を研究する特権をわたしたちに与えることにより、このお方はわたしたちの前に豊かな祝宴を設けてくださった。このお方がその肉と血として表されたこのお方の霊と命であるそのみ言葉を大いに楽しむことから得る恩恵は多い。このみ言葉を共にすることによって、わたしたちの霊的力は増し加わる。わたしたちは真理の恵みと知識に成長する。自制の習慣が身につく、強められる。子供時代の虚弱さ—いらだち、がんこさ、わがまま、短気な言葉、怒りっぽい行動—などが消え、その場所にクリスチャンの成人男子、成人女子の気品があらわれる。(両親、教師、生徒への勧告 207)

あわれみに富まれる神は、わたしたちのために清い生活の原則を聖書の中に示しておられる。……

神は、わたしたちの道を四方から取り囲んでいる危険について、またその危険からのがれる方法について、聖なる人々に靈感をあたえてわたしたちのために記された。神のご命令にしたがって聖書を研究する者は、そうしたことについて無知ではない。終末時代の危険のさなかにある教会員のひとりびとりは、自分の望みと信仰の理由を知っていなければならない。その理由は理解できないようなむずかしいものではない。恩恵と主イエス・キリストを知る知識に成長するときに、わたしたちの心はあますところなく占領される。(青年への使命 279、280)

神の民が恵みに成長している時はいつでも、絶え間なく神のみ言葉のよりはっきりとした理解を得ている。彼らはその聖なる真理の内に新しい光と美しさをはっきり見る。これはすべての時代における教会の歴史の中で真実であり、それは終わりまでこのように続く。(福音宣伝者 297)

唯一の源から

「めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきたのである。」(ヨハネ 1:17)

恵みの内にあるあなたの力強さと成長は唯一の源からくる。あなたが誘惑され、試練を受けるとき、もしあなたが正しいことのために勇敢に立つなら、勝利はあなたのものである。あなたはクリスチャン品性の完全に一歩近づく。天からの聖なる光があなたの魂の部屋を満たし、あなたは純潔な快い雰囲気の中に囲まれる。(天国で 231)

わたしたちの上にある天の光の側に立つのは、わたしたちの特権である。エノクが神と共に歩んだのはそのようにであった。エノクにとって高潔な生活を送るのは、現代のわたしたちより容易なわけではなかった。彼の時代の世が、今よりも恵みと聖潔のうちに成長するのに有利なわけではなかった。

エノクが、世にある欲のために滅びることを免れることができたのは、祈りと神との交わりによってであった。わたしたちは終わりの時代の危機の中に生きているのであるから、自分たちの力を同じ源から受けなければならない。わたしたちは神と共に歩まなければならない。世からの分離がわたしたちに要求されるのは、わたしたちが忠実なエノクの模範に従わない限り、世の汚れに染まらずにいることはできないからである。

決して失敗することのない力の源を持つことのできる多くの者がどうして水のようになり弱いのであろうか。天はわたしたちに与える用意ができていますが、それはわたしたちが神にあって強力であり、キリスト・イエスにあって男女の満ち満ちた高さに達することができるためである。あなたは昨年中に霊的な力をどれほど増したであろうか。わたしたちの内のだれが、妬み、自尊心、恨み、嫉妬、利己心が拭い去られ、柔和、寛容、優しさ、愛という御霊の恵みだけを残したであろうか。神はご自分が備えておられる助けをわたしたちがつかむなら、わたしたちをお助けになる。(レビュー・アンド・ヘルド 1900年1月9日)

神が造られた他のどの被造物も、人間ほど向上や精錬や高潔さの可能性はない。……人は自分がどのようなものであり得るか、どのようなものになり得るかということを理解することができない。キリストの恵みによって彼は不断の知的向上が可能である。真理の光が彼の思いに射し込み、神の愛が彼の心に広く注がれるようにしよう。そうすれば、キリストが与えるために死なれた恵みを通して、彼は力の人、地上の子ではあっても不死の相続人となることができる。(天国で 195)

他の人々を助けて

「人を潤す者は自分も潤される。」(箴言 11:25)

キリストは渴いているわたしたちに、わたしたちが存分に飲むことのできるように命の水を差し出される。わたしたちがそうするとき、わたしたちは永遠の命に湧き上がる水の井戸として、キリストを自分の内に持つ。そのときわたしたちの言葉は潤いに満たされ、他の人々を潤す準備ができる。(教会への証 6 卷 51)

人はひとたびキリストに来るやいなや、イエスはいかに尊い友であるかを他の人に知らせたいと望む。人を救い清める真理はどうしても心の内にとどめておくことはできない。もしわたしたちがキリストの義の衣をまとい、内住する聖霊の喜びで満たされているなら、黙っていることはできないはずである。もし主の恵みを味わい悟ることができたなら、何か言いたくなる。……

他人を祝福しようとする努力は、かえって自分自身の祝福となって戻ってくる。神が贖いの計画の中でわたしたちに一部携わらせてくださるのはこのためである。……

もしあなたが、ご自分の弟子がするようにとキリストが計画なさるとおりに働き、このお方のために魂を勝ち取ろうと思えば、あなたは神の事柄にいつそう深い経験と知識の必要を感じ、飢え渴くように義を慕うようになる。こうして神に求めるならあなたの信仰は強められ、あなたの魂は救いの井戸から思う存分飲む。反対や試練に会えば、かえって聖書に親しみ、祈るようになる。あなたはキリストの恵みと知識に成長し、豊かな経験をしてく。

おれを忘れて他人のために働く精神は、その人の性格に深さと落ち着き、キリストのようなうわしさを与え、平和と幸福をもたらす。向上心は高められ、怠惰や利己心の余地はなくなる。こうしてクリスチャンの美德を実行する人は成長し強くなり、神のために働く。彼らははっきりとした霊的知覚力を持ち、動揺することなく、信仰に成長し、祈りに力を増す。人の心に働きかける神の御霊が人の心にふれて働くと、それに答えて、心は美妙的な音をかなでる。このように、他人の益のためにわれを忘れて働く者は必ず自分の救いを全うする。恵みに成長するただ一つの方法は、……助けを必要としている人にわたしたちの力の及ぶ限り助けと祝福を与えることである。(キリストへの道 106～109)

霊的な運動は必須

「目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。」(コリント第一 16:13)

青年たちの前には、崇高な標準が示され、神は、若い人々を神への真の奉仕に召しておられる。よろこんでキリストの学校の生徒となる真実な心を持った青年は、主のために大きな働きをすることができる。隊長たるキリストの、「勇気を出して男らしくせよ」との命令が、全戦線にわたってわたしたちの時代にまでひびきわたってくるとき、わたしたちはこれに注意を怠ってはならない。(青年への使命 10)

力は、働かせることによってもたらされる。神が自分に与えて下さった能力を用いる人はみな、このお方の奉仕に捧げるために能力が増し加えられる。神のみ事業において何もしない人々は、恵みと真理の知識において成長することがない。横たわって自分の肢体を働かせることを拒む人は、まもなくそれらを使う力をまったく失う。このように神が与えて下さった自分の力を働かせないクリスチャンは、キリストにおいて成長しないだけでなく、すでに持っていた力も失う。彼は霊的な中風患者となる。神への愛と同胞への愛を持って、他の人々を助けようと奮闘する人々こそ、真理に確立し、強められ、定着するのである。真のクリスチャンは神のために、衝動からではなく原則から働く。一日、一カ月ではなく、全生涯の期間を通じて働くのである。(教会への証 5 巻 393)

この世界は練兵場ではなくて戦場である……。だれでもりっぱな兵士のように苦難に耐えなければならない。彼らは心を強くし雄々しくふるまわなければならない。この世において認められたり報賞を受けたりしなくても、自ら進んで重荷を負い、困難な立場を引き受け、しなければならない働きをなすことに品性の真の価値が表わされるのである……。 (教育 347, 348)

ああ、各々が、神から自分に与えられた能力に正当な評価を行うならばよいのだが。キリストを通して、あなたは進歩のはしごを登り、一切の力をイエスの支配下に置くことができる。……あなた自身の力では、何もできない。しかし、イエス・キリストの恵みのうちにあなたは自分自身の魂にとっては最善を、また他の人々の魂のためには最大の祝福をもたらすような方法で自分の力を用いることができる。イエスをつかみなさい。そうすればあなたはキリストの働きのために勤勉に働き、ついには永遠の報いを受けるようになる。(神のむすこ娘たち 118)

神の処方

「それは、わたしたちの神と主イエス・キリストとの恵みによって、わたしたちの主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあつて栄光を受けるためである。」(テサロニケ第二 1:12)

多くの人々は、恵みに成長することを切望している。彼らはそのことについて祈り、そして自分たちの祈りが聞かれないことに驚いている。主人であられるお方は彼らが成長するためになすべき働きを与えてこられた。もし働きの必要があるとすれば、祈る価値は何であろうか。問題は、彼らはキリストがそのために死なれた魂を救おうと努めているのか、ということである。霊的な成長は他の人々に、あなたが神から賜った光を与えることにかかっている。あなたは自分の最上の思想を、あなたの家族の中で、教会の中で、また近隣において、善をしかも善だけを行うために活発に労するために注ぎ出さなければならない。

自分が恵みにおいて成長しているかという思いにますます不安になる代わりに、ただ示された一つ一つの義務を行い、魂の重荷をあなたの心に携え、そして考えられる限りの手段をもって失われたものを救うよう努めなさい。親切でありなさい、礼儀正しくありなさい、祝福の望みについてへりくだって語りなさい、イエスの愛を語りなさい、このお方のいつくしみ深さ、憐れみ、そして義を教えなさい。そして自分が成長しているかどうかについて心配するのをやめなさい。植物は何らかの意識的な努力を通して成長するのではない。……植物は自分の成長を絶えず悩んではいない。それはただ、神の監督下で成長するのである。(今日のわたしの生涯 103)

もしわたしたちが心と思いを神の奉仕に捧げ、このお方がわたしたちのために用意された働きをなし、イエスのみ足の跡を歩むならば、わたしたちの心は聖なる立琴となり、すべての弦は世の罪を取り除くために神が遣わされた小羊への讚美と感謝を奏でるようになる。……

主なるイエスは、わたしたちの力であり、幸福であり、あらゆる危急時に人が力を引き出すことのできる偉大な倉であられる。わたしたちがこのお方を研究し、このお方について語るとき、ますますこのお方を眺めることができるようになる。わたしたちがこのお方の恵みを自分のものとし、差し出して下さる祝福を受けるとき、わたしたちは他の人々を助けるための何かを得るようになる。感謝に満たされて、わたしたちはただで与えられた祝福を他の人々に伝達するようになる。こうして受けて与え、わたしたちは恵みのうちに成長するのである。(同上 171)

怠惰の余地はない

「わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。(ルカ 11:23)

わたしたちの一貫したクリスチャン生活によらなければ、いかにして世にわたしたちの光が輝き出るであろうか。わたしたちがキリストのために何もしないなら、世はいかにしてわたしたちがキリストに属しているかを知ろうか。……自分たちの能力をキリストのために最高に用いて働く人々と魂の敵のために働く人々の間に中立という立場はない。主のぶどう畑で怠け者として立っているすべての者は、自分自身が何もしていないばかりではなく、働こうとしている人々にとって妨害である。サタンは自分自身の救いと他の人々の救いを確保するために真剣に奮闘しないすべての者のために仕事を見つける。……クリスチャンが見張りを解くときはいつでも、この強力な敵は突然、乱暴に襲ってくる。教会員が活発で勤勉でなければ、彼の考案によって打ち負かされることになる。(教会への証 5 巻 393, 394)

義と真理のために固く立つべき人々は、弱さと優柔不断を表し、サタンの攻撃を促進してきた。恵みに成長せず、神聖な達成において高い標準に到達しようとしぬ人々は、打ち負かされる。……

この争闘と試練の時に、わたしたちは義なる原則から、また堅固な宗教的な確信から、キリストの愛の永続的な保証から、そして神聖な事柄における豊かな経験から引き出すことのできるあらゆる支えと慰めを必要としている。わたしたちは恵みにおける着実な成長の結果としてのみ、キリスト・イエスにおける男女の満ちみちた高さにまで到達するのである。(同上 104, 105)

わたしたちがなすか、あるいはなさない働きこそ、わたしたちの生涯と運命におそろいほどの力をもつてものを言うのである。神はわたしたちに提供されている役に立つための一つ一つの機会を生かすように要求しておられる。これを怠るならば、わたしたちの霊的な成長にとって危険である。わたしたちにはなすべき偉大な働きがある。天のために品性を完成させることができるように、神が与えて下さった貴重な時間を、無為に過ごすことがないようにしなさい。わたしたちはこの働きにあつて何もせず、怠惰であつてはならない。なぜなら、わたしたちには、目標も目的もなく過ごすための時間は一瞬たりともないからである。神はもしご自分に祈り信じるならば、わたしたちの過ちを克服するために助けて下さる。わたしたちを愛して下さる方を通して、わたしたちは勝ち得て余りがある。(教会への証 3 巻 540)

人生において必要な義務

「しかし、わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜わった、神のめぐみの福音をあかす任務を果し得さえしたら、このいのちは自分にとって、少しも惜しいとは思わない。」(使徒行伝 20:24)

あなたの霊的な力と恵みにおける成長は、あなたを救って下さるために何一つ、ご自分の命さえ惜しまれなかったあなたの救い主のために喜んでなす愛の働きと良い行いに比例する。……

わたしたちの良い行いだけでは、だれも救われないが、良い行いなくして救われることもできない。そしてイエスのみ名と力のうちにわたしたちのなし得ることをすべてなした後、わたしたちは、「わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をしたに過ぎません」と言うのである(ルカ 17:10)。(教会への証 4 巻 228)

もしあなたが自分の心にキリストの恵みの富をもっているならば、魂の救いがあなたの与えることのできる救いの道の知識にかかっているというときに、その富を自分にとどめておいたりほしない。これらの人々はあなたのところへ来て自分たちの心の切望を告げることはないかもしれないが、多くの人々は飢え、満足していない。そして、キリストは彼らのご自分の恵みの富をもつことができるように死なれたのである。あなたは自分が享受している祝福にこれらの魂があずかることができるように何をすることであろうか。……

恵みにおける成長は、神のために働く能力が増し加わることにあらわれる。キリストの学校で学ぶ人は、どのように祈り、主人のためにどのように語るべきかを知るようになる。自分に知恵と経験が不足していることを自覚し、彼は偉大な教師の訓練の下に自らを置く。こうすることによってのみ、神の奉仕における完全さを得ることができることを知っているのである。そして日ごとに彼は霊的な事柄をよりよく把握するようになる。毎日の勤勉な働きにより、他の人々を助けるのにますますきめ細かくふさわしい者となる。(天国で 320)

生活上必要な義務を喜んで勤勉に行うという重要な教訓は、なお多くのクリスチャンが学ぶべき教訓である。機械工や商人、弁護士、あるいは農夫の立場で、当たり前な生活上の仕事の中にキリスト教の規則を実行するためには、開かれた伝道地で伝道者と認められた人が働くよりも、もっと恵みと、もっと品性の堅固な訓練が必要である。宗教を作業場や職場に持ち込み、毎日の生活の詳細に至るまで聖化し、すべての取引を神のみ言葉の標準に従って律するのには、強い霊的な神経を要する。しかし、これこそ、主が要求なさるものである。(両親、教師、生徒への勧告 279)

わずかな機会

「すべてあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ。」(伝道の書 9:10)

他人のための働きに加わることで自己犠牲の熱意を揺り起し、品性を高め強めるものはない。……だれもが他人を助ける仕事を始めるためどこか遠い伝道地に招かれるまで待っている必要はない。奉仕の門戸はどこにでも開かれている。わたしたちの周囲にはわたしたちの助けを要する人がいる。寡婦、孤児、病人、死んでゆく人、心を痛めた人、失望した者、無知な者、社会から見捨てられた者が至るところにいる。

近所に住んでいる人のために働くことを自己の特別な義務と感じるべきである。宗教的なことに興味のない人々を最もじょうずに助けうる方法を研究なさい。友人や隣人を訪れるときにその人の現世の幸福と共に霊的な幸福に対する関心を表わしなさい。罪を許したもう救い主、キリストのことを告げなさい。自分の家に隣人を招き、尊い聖書や、真理を説明する書籍と一緒に読みなさい。賛美と祈りを共にするように招待なさい。こういう小さな集りでもキリストは約束の通りそこに臨在され、人々の心はキリストの恵みによって感動を受けるのである。……

多くの者は狭い生涯を送っていることを後悔している。しかし希望するならば、自ら生涯を広くし、力のあるものとすることができる。心と意思と精神をつくしてイエスを愛し、おのれのごとくに隣人を愛する者は、自分の才能や感化を用いる広い伝道地を有するのである。大きい働きをさがすのに熱心なあまり、小さい機会をのがしてはならない。また一方、小さい働きはりっぱにできるが、大きな仕事に完全に失敗し、失望に陥るかもしれない。要は全力を尽して現在の仕事をすることによって、もっと大きな仕事に対する準備をしてゆくことである。多くの人が実を結ばずに枯れてしまうのは、日常の機会を軽視し、手近な小さい仕事を怠るからである。

多くの者が行くのを遠慮する事情のある好ましくない失望的な伝道地で、自分を犠牲にして働いた人の努力によって著しい変化がもたらされている。人間の力にたよらず、神にたよって忍耐強く、うまずたゆまず働いたため、神の恵みがこの人たちをささえたのである。このようにしてどれほどの善行がなされたかは、この世ではわからないが、その喜ばしい結果は、かの大いなる将来において現われるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 123～126)

なぜ試練が？

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」(マラキ 3:3)

ここに工程、すなわち万軍の主によって実行されるべき精錬し清める工程がある。働きは魂にとって最も厳しいものであるが、この工程を通してのみ、ごみと汚れた不純物を取り除くことができるのである。わたしたちの試練はこのお方のみ旨への従順のうちに天父に近く連れていき、それによってわたしたちが主に義のうちに捧げ物をお捧げできるためにどうしても必要である。神は各々わたしたちに向上させるべき能力とタラントを与えて下さった。わたしたちは、神のみ旨を行うために、神聖な生活の中で新しく生きた経験を必要としている。過去の経験がどれほどであろうと、現在のために十分ではなく、自分たちの道にある困難を乗り越えるためにわたしたちを強めることはない。わたしたちは勝利者となるために、新しい恵み、新鮮な力を日ごとに必要としている。……

アブラハム、モーセ、エリヤ、ダニエルそしてそのほか多くの人々はみな激しく試みられたが、同じ方法ではなかった。一人びとりは、人生の中で個人個人のテストと試練があるが、まったく同じ試練はまず二度と訪れない。各自は自分自身の経験を持ち、その性質と状況において特有で、しかるべき働きを成し遂げる。神にはわたしたち一人びとりかつ全員の人生において、働きと目的をもっておられる。一つ一つの行為は、どれほど小さくても、その役割がある。……

すべての人が、自分の取る一步一步に自分自身の生涯と他の人々の品性に及ぼす永続的で支配的な感化力があると感じればよいのだが。ああ、そうであれば、どれほど神との交わりが必要なことであろう。神聖な恵みが一步一步導き、どのようにクリスチャン品性を完成させるかを示して下さい、どれほど必要であろう。

クリスチャンには経験すべき新しい場面と新しい試練があるが、過去の経験は十分な手引きとならない。わたしたちは神聖な教師から、今、生涯のどの時代とも同様に、もしくはさらに学ぶ必要がある。そしてわたしたちが経験を得れば得るほど、天の純潔な光に近づけば近づくほど、ますます改革の必要のあるものを自分のうちに見いだすようになる。……義人の道は、力から力へ、恵みから恵みへ、また栄光から栄光へと漸進的な道である。神聖な啓発は、わたしたちの前進する動きに応じて、わたしたちを目の前にある責任と危急に応じるのにふさわしいものとしつつ、ますます増し加わるのである。(レビュー・アンド・ハルト 1896年6月22日)

神に満ちているもの

「また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。」(エペソ 3:19)

神はご自分のみ旨を知る人々がご自分のみ言葉を行う者となるように求めておられる。弱さ、二心、優柔不断は、サタンの攻撃を引き起こす。そしてこれらの特質が成長することを許す人々は、誘惑の大波によってなすすべなく引き倒されてしまうのである。……

恵みのすべての手段を勤勉にいかし、魂のうちにますます神の愛が豊かになるようにすべきである。それは、「それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされ」るためである(ピリピ 1:10, 11)。あなたのクリスチャン生涯は、強健で勇敢なかたちをとっていなければならない。あなたは聖書の中で自分の前に置かれている高い標準に到達できるし、神の子になりたいならば、到達しなければならない。あなたはじつと立っていることはできない。前進するか後退するかのいずれかである。あなたは霊的な知識を持たなければならない。それは「すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、……キリストの愛を知って」「神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされる」ためである。……

あなたは制限されたクリスチャンの成長をとげるであろうか、あるいは神聖な生活において健全な進歩をとげるであろうか。霊的な健康があるところには、成長がある。神の子はキリストのうちにあって満ちみちた男女の高さにまで成長する。彼の向上に限度はない。……

わたしたちには得るべき勝利があり、もしそれらを得なければ天国を失うのである。肉の心は十字架につけられなければならない。なぜなら、その傾向は道徳的な墮落であり、その終局は死だからである。命を与える福音の感化力以外に、魂を助け得るものはない。聖霊の力強い活力が、活気づけ、回復させ、また変化させる力に満ちて電気ショックのように麻痺した魂に下り、死んで地に属した好色な状態から、人全体を霊的な健康へと回復して下さるよう祈りなさい。あなたはこうして神聖にあずかる者となり、世にある欲によって滅びることを免れる。そしてあなたの魂のうちに、その打たれた傷によってあなたを癒して下さったお方のみかたちが反映するようになる。(教会への証 5 巻 263 ~ 267)

研究 6

最後の出来事



ふるい

—The shaking—

今回は「ふるい」という主題をもって聖書と預言の霊から研究していきます。特にこの「ふるい」と神の教会との関係、またわたしたち個人との関係が何であるかについて調べていきましょう。

1. 「ふるい」、あるいは「ふるい分ける」

「見よ、わたしは命じて、人がふるいで物をふるうように、わたしはイスラエルの家を万国民のうちでふるう。ひと粒も地に落ちることはない」(アモス 9:9)。

「また、箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう」(マタイ 3:12)。

わたしたちは上記のみ言葉から「ふるい」あるいは「ふるい分ける」というのが何を意味するのか理解することができます。マタイ 3:12 でバプテスマのヨハネは、キリストが「箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め」と語りました。ですからわたしたちは秋、あるいは収穫の時(霊的冬がやって来る前)に起こるべき事件について深く知らなければなりません。「彼らは、この世の歴史が幕を閉じる前に起こる事件を知るべきである。これらの事件はわたしたちの永遠の幸福に関係があるのであり、教師と学生はこれらにもっと注意を向けるべきである」(教会への証 6 巻 129)。

2. ふるいはいつ、どこから起こるか

わたしたちは上記のみ言葉で、この事件は収穫の時に起こるものだということがわかりました。すなわち、「四人の御使が地の四方の風をひき止めている時」に神の僕らの額に印をおす働きが始まるのと同時に起こる事件であることがわかります(黙示録 7:1～3)。またこれは、天の光と真理を前もって受けた者、す

なわち「まずわたしの聖所から始めよ」と言われた現代のイスラエルの中から起こるということがわかります(エゼキエル 9:4～6)。「わたしは、第三天使を見た。わたしと一緒にいた天使は言った。『彼の任務は、恐るべき任務である。彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒麦からよりわけて印をおし、たばねる。われわれは、こうしたことに全身全霊をかたむけ、すべての注意を向けなければならない』」(初代文集 221)。

「大きなふるいが始まった。そしてこれは続いていく。そして、真理のために勇敢に屈することなく立ち、神と神の働きのために犠牲を払うもの以外はみなふるわれる」(初代文集 118; 1850 年)。

「わたしは、今、わたしたちがふるいの時代にいることを見た」(教会への証 1 巻 429; 1862 年)。

「神は、今、ご自分の民の目的と動機を試して、彼らをふるい分けておられる」(教会への証 4 巻 51; 1876 年)。

「今日わたしたちは、ふるいの時代におり、ふるわれるべきものはすべてふるわれる。」(教会への証 6 巻 332; 1900 年)。

「真の信心は、見せかけとうわべだけの信心からはっきりと区別されるようになる。その輝きを称賛されていた多くの星が、その時、暗闇の中に消えていく。豊かな穀物打ち場としか見えない所からさえ、もみからが雲のように風に吹きはらわれる。聖所の飾りを身につけてはいるが、キリストの義をまもっていない者は皆、裸の恥をさらすのである」(教会への証 5 巻 81)。

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を捨てて反対の側に加わる」(各時代の争闘下巻 378)。

3. ふるいの目的

では、ふるいの目的は何でしょうか。

(1) 教会を清め、麦をより分けるため

「神はご自分の民をふるい分けておられる。このお方は清い聖なる教会をお持ちになるのである。わたしたちは人の心を読むことはできない。しかし主は、教会を純潔に保つ手だてを備えておられる」(教会への証 1 巻 99)。

「審判が近づくにつれ、すべての者が自分の真の品性をあらわすであろう。そして彼らがどの部類に属しているかが明白になるであろう。ふるいは進行している。教会は清められなければならないし、また清められるのである」(教会への証 1

卷100)。

「神は決して信徒の群れが完全に人間の器だけに寄り頼むようにはなさらなかった。しかし、教会の清められる日は急速に近づいている。神は純潔で誠実な民をお持ちになる。まもなく起ころうとしている強大なふるいのときに、わたしたちはイスラエルの力をよりよく量ることができるであろう。しるしは、主がご自分のみ手に箕があることを明らかにされる時が近いことを示している。そしてこのお方は徹底的にご自分の打ち場を清められるのである」(教会への証 5 卷 80)。

(2) 福音のみわざに力を与えるため

「ご自分の教会を愛する神の愛は無限である。神はご自分の嗣業を絶えず見守っておられる。神は、教会の清め、すなわち教会の現在と永遠の益のために重要不可欠なものでなければ、どのような試練も教会に臨むことをお許しにならない。主は、ご自身の地上での生涯の初めと終わりに宮を清められたように、ご自分の教会を清められるであろう。主が教会にお許しになるあらゆる試みと試練は、ご自分の民がより深い敬虔と、世界中あらゆる所に十字架の勝利をたずさえていくためのより強い力とを得させるためなのである」(教会への証 9 卷 228)。

(3) 純粋な金属と不純物とをより分けるため

「今は純粋な金属と不純物とが入り混じっているので、それらを確実に見分けることができるのは、無限の神の識別力のある御目だけである。しかし、聖潔と真理の道徳の磁石が、不純物や偽物を寄せ付けない一方で、純粋な金属を互いに引きつけるのである」(教会への証 5 卷 101)。

このように、前記の証を通して、ふるいの目的は残りの群れをより分けるための分離であるということがわかります。

4. ふるいの種類

(1) 神によって

「見よ、わたしは命じて、人がふるいで物をふるうように、わたしはイスラエルの家を万国民のうちでふるう。ひと粒も地に落ちることはない」(アモス 9:9) [マタイ 3:12、ヨハネ 6:41～66 参照下さい]。

「わたしは、わたしが見たふるいの意味をたずねた。そして、それは、ラオデキヤ教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直な証によるものであることを、わたしは示された」(初代文集 438)。

「神は、今、ご自分の民の目的と動機を試して、彼らをふるい分けておられる」(教会への証 4 巻 51)。

「わたしは、第三天使を見た。…彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒麦からよりわけて印をおし、たばねる」(初代文集 221)。

(2) サタンによって

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう」(マタイ 24:24) [テサロニケ第二 2:3～12 ご参照下さい]。

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言い伝えに基くものにすぎない」(コロサイ 2:8)。

「こうして、わたしたちは人の悪巧みによって起こる様々な教えの風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく」(エペソ 4:14)。

「あらゆる教理の風が吹くであろう」(教会への証 5 巻 80)。

「サタンは様々な人間を相手にするために様々なわなを備えておいた。神の律法が無効にされる時、教会は火のような試練によってふるわれ、わたしたちが予想しているより多くの者が、『惑わす霊と悪霊の教えとに気をとられ』るであろう」(エレケッド・メッセージ 2 巻 368)。

「すべての魂に試練が訪れるときはそう遠い先のことではない。獣の刻印がわれわれの上に強制されるであろう。世の要求に一步一步屈して世的な習慣に従っている人々は、ちょう笑、侮辱、投獄の脅かし、そして死に自分の身をさすよりは、権力に屈した方がたやすいと思うようになる」(教会への証 5 巻 81)。

5. まことの証人の率直な証による「ふるい」

ここまで終末の時代にあらゆる種類のふるいが起こるということについて調べてきました。次は、SDA教会のメンバーとして、何がふるいの原因であり、その結果どんなことが起こるのかを調べてみましょう。預言の霊は次のように語っています。

「わたしは、わたしが見たふるいの意味を尋ねた。そして、それは、ラオデキヤ教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直な証によるものであることを、わたしは示された。これは、受ける者の心を動かして、高く旗をかかげさせ、率直な真理を語らせる。ある者は、この率直な証を聞くにたえない。彼らは、それに反対して立ち上がる。そして、これが、神の民の間にふるいが行なわれる原因

となるのである。

わたしは、真の証人の証が、その半分も注意されないのを見た。教会の運命がかかっている厳粛な証が全く無視されないとしても、軽視されている。この証は、深い悔い改めを呼び起こすべきものである。それを真に受け入れるすべての者は、それに従って清められるのである。…天使は『見なさい』と言った。すると、わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。わたしは、前に涙を流し、苦悶しているのを見たその人々を見せられた。彼らの回りの守護の天使は二倍に増やされた。…この一団の数は減少していた。ある者は、ふるい落されて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった。

わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。…真理だけが彼らの前で高められたのである。…真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった」(初代文集 438～440)。

上記の証からわたしたちに特別な関心を引くいくつかの重要点を要約してみましょう。

- (1) 率直な証をお与えになるお方はどなたか。…まことの証人(黙示録 3:14)。
- (2) この証はだれに提示されたか?…ラオデキヤ教会(黙示録 3:14)。
- (3) この率直な証が特別にラオデキヤ教会に提示されたのは、いつか?…1888年(牧師への証 91、92)。
- (4) 率直な証の結果は何か?…ふるい。
- (5) 人々が証を受け入れた証拠は何か?…深い悔い改め・それに従って清められる・標準を高める・頭から足まで武具をまとっていた。
- (6) 人々が証を拒絶した証拠は何か?…率直な証を聞くに耐えない・それに反対して立ち上がる・その半分も注意されない・厳粛な証が軽視されている
- (7) この証はいかに重要であるか?…教会の運命がかかっている。
- (8) 時間が過ぎるにつれてこの証を受け入れた群れの数はどうなったか?…この一団の数は減少していた。
- (9) どんな人々がこの証を拒絶したか?…忍耐強く嘆願し苦悩しなかった人々・不注意な人々(言葉と行為において:教会への証 4巻 306)・無関心な人々(マタイ 11:16、17 参照)

- (10) この証を受け入れた人々はついに何をするか?…力強く真理を語る。
(11) 彼らにとって生命よりも尊いものは何であるか?…神のみ言葉、真理。

上記の証は終わりの時に神の民の中で起こる事件の予告であることを覚えなければなりません。「率直な証」に従って真のキリスト者の態度は『しもべは聞きます。主よ、お話しください』(サムエル記上 3:9)、「われわれは良くても悪くても、われわれがあなたをつかわそうとするわれわれの神、主の声に従います。われわれの神、主の声に従うとき、われわれは幸を得るでしょう」(エレミヤ 42:6) というみ言葉でなければならないことを覚えておきましょう。

6. 今日、ふるいとわたしたちとの関係は何か

『箕を手にもって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め…るのであろう』(マタイ 3:12)。それはふるい分ける一つの時代であった。真理のみ言葉によって、からは麦から分けられつつあった。彼らは、うぬぼれが強く、独善的で、譴責を受け入れることができず、また世俗への愛着のためにつつましい生活を受け入れることができなかつたので、多くの者がイエスから離れた。今日も多くの者が同じことをしている。カペナウムの会堂でこれらの弟子たちが試みられたように、今日も魂が試みられる。真理が心に植えつけられると、彼らは、自分たちの生活が神のみ心に一致していないことを悟る。彼らは自分自身のうちに完全な変化が行なわれなければならないことを認めるが、自己犠牲的な働きをとりあげたくない。だから彼らは、自分の罪がばくろされると怒るのである。彼らは、弟子たちがイエスを離れ去ったように、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」とつぶやきながら、気を悪くして行ってしまうのである(ヨハネ 6:60)」(各時代の希望中巻 143)。

「彼らの耳には称賛とお世辞はこちよいが、真理は歓迎されない。彼らはそれを聞くことができない。民衆が従い、大群衆が養われ、勝利の叫びが聞かれると、声高らかに賛美する。しかし神のみたまのさぐりによって彼らの罪があらわされ、その罪を離れるように命じられると、彼らは、真理に背を向けてふたたびイエスと共に歩まない」(各時代の希望中巻 143, 144)。

わたしたちは前記のみ言葉から非常に重要な教訓を学ぶことができます。ガリラヤでご自分の民を試みられた主イエスは、今日も、ラオデキヤ教会への率直な証によってわたしたちを試みておられるのです。

「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、

なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。すべてわたしの愛している者を、わたしはしかつたり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい」(黙示録 3:15～19)。

愛する再臨信徒の皆様方!わたしたちはこのような勧告と叱責を受けるとき、どのような反応を示すのでしょうか。「しもべは聞きます。主よ、お話しください」(サムエル記上 3:9)とみ招きに応じているのでしょうか。そうでなければ無関心に勧告を拒絶し、まことの証人の証に対して冷たい反応を見せているのでしょうか(ヨハネ 6:60、66 参照)。神の霊が罪から離れるようにお命じになるとき、わたしたちはどのような態度を見せているのでしょうか。「きょう、み声を聞いたなら、あなたがたの心を、かたくなにはいけない」(ヘブル 4:7)。「愛する者たちよ。…子たちよ。…父たちよ。…若者たちよ。…子供たちよ。…世と世にあるものを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は、彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる」(ヨハネ第一 2:7、12～17)。わたしたちは肉となられたみ言葉、すなわちキリストに対する驚くべき言葉を聖書に見つけることができます。「主はイスラエルの二つの家には聖所となり、またさまたげの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には網となり、わなとなる。多くの者はこれにつまずき、かつ倒れ、破られ、わなにかけられ、捕えられる」(イザヤ 8:14、15)。今日も同様に神のみ言葉を受け入れる者にとって、み言葉は「神の武具」となり(エペソ 6:11、13)、これを拒絶し、無視する者には預言者イザヤの預言が成就するというを理解すべきです。では、なぜ、このようなふりが今日、わたしたちの時代に起こるべきなのかということについてみ言葉から調べてみましょう。終りの大いなる危機(日曜強制休業令)がやって来るとき、み言葉を受けた者と拒絶した者との間にはおのずと相違点が見られるようになりますが、なぜ今、まことの証人の証を通してふりが起こるべきなのでしょう。

「イエスのみ言葉と行いの多くは、限りある人間の心には神秘的に思えるが、そのことばと行いの一つ一つには、われわれをあがなうための働きにおける明白な目的があつて、それぞれの結果を生ずるように考慮されていた。もしわれわれがキリストの意図を理解することができるなら、すべてのことが重要であり、完

全であり、そしてキリストの使命と調和していることがわかるのである。

われわれは、いま神のみわざと方法を理解することはできないが、人に対する神のすべての態度の根底には神の大いなる愛があることを認めることができる。イエスの近くに生活している者は、敬虔の奥義について多くのことを悟る。譴責が与えられ、品性が試みられ、心の意図が明るみに出されるのは、あわれみによるものであることを彼は認める。

イエスが試金石となる真理を示され、そのために多くの弟子たちが離反したとき、彼はご自分の言葉の結果がどうなるかをご存知であった。しかし主は、達成すべきあわれみの目的をもっておられた。…もし前もって試練が与えられなかったら、ただ利己的な動機から行動していた多くの者たちも弟子たちとの関係を続けたであろう。…しかしイエスは、ご自分に真に従っている者たちを、ご自分の存在によってまだ強めることができになる間に、この危機を招かれたのであった。あわれみ深いあがない主は、ご自分を待っている運命を十分に知っておられたので、やさしくも弟子たちのために道をたいらにし、最大の試練に彼らを備えさせ、最後の試みのために彼らを強められた」(各時代の希望中巻 146, 147)。

わたしたちは間もなく最後のテスト(日曜強制休業令)がわたしたちに迫って来ることを知っています。しかし主がわたしたちのためにとりなしをしておられるこの間に、わたしたちにまことの証人の証を与えて下さり、すべての罪を追い払い、主と共に立たせて下さる驚くべきみ摂理に対して感謝しなければなりません。覚えなければならないことは、最後のテストがやって来るときは、SDA教会の信徒たちは「見張り」として光を伝える者として」すでにふるわれ、完全な麦となっていないということだ。

わたしたちは今日、ふるいの時代に住んでいます。ふるわれるべきすべてのものが、まことの証人の率直な証によってふるわれて、整理され、主を愛した弟子たちのように、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」と、謙遜に寄りすがり、まことの証人と共に、この真理を聞いたことのないすべての魂にメッセージを伝える聖徒となることができまように切に願っております(ヨハネ 6:68, 69)。

(50 ページの続き)

中に入りました。弟子たちは最近、他のあらしを体験したばかりでしたが、そのときはイエスが自分たちと一緒に舟に乗っておられました。このときは自分たちしかいなかったのです、非常におそろしかったのです！

突然、見知らぬ幽霊(ゆうれい)のようなものが水の上を歩いてきました。さあ、彼らは本当におそろしかったのです！たしかに死ぬほどでした。しかし、風のヒューヒューなる中で、彼らはやさしい歓迎の声を聞きました。「イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。するとペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください』。イエスは、『おいでなさい』と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った」(マタイ 14:27～29)。

ペテロがイエスを見て従ったとき、その瞬間(しゅんかん)、彼は不可能(ふかのう)なことができました。彼は実際に水の上を歩いたのです。他の弟子はだれもたのまなかったのです、そうしませんでした。しかし、とつぜんペテロは自分が残りの人たちより重要にちがいないと考えはじめました。そこで、彼は彼らの方へふりかえり、ちょっとみせびらかしました。すると、どうなったと思いますか？すぐさま彼は沈(しず)みはじめました。イエスはあわれみのうちにあわれな弟子を救うためにご自分のみ手をのばされました。ペテロは不可能なことをする喜びを決して忘れませんでした。また自分がそれをなすために、どれほどイエスの助けを必要としているかを決して忘れることがありませんでした。

このすべての中に、わたしたちのための教訓があります。イエスはそのときにはご自分の栄光の王国をおたてになりませんでした。なぜなら、そのためにもっと良い時—ご自分の恵みの王国の後—を計画しておられたからです。あなたは、わたしたちが両方の王国の一部となれることをうれしく思いませんか？こころよく、従順にいつもこのお方を見ていきましょう。そうすれば、このお方はわたしたちが不可能なことをするのを助けて下さいます。それはこのお方のほまれと栄光のためであり、わたしたちの最高の幸せのためとなるのです。

ブルーベリートルト

[材料]

タルト生地

全粒薄力粉	170 g
メープルシロップ	50 g
オリーブオイル	50 g
塩	少々

フィリング

無調整豆乳	250ml
ココナッツミルク	150ml
玄米粉	50g
玄米水飴	20～40g
三温糖	30～60g

ガーニッシュ

ブルーベリー	1パック(200g位)
--------	-------------

[作り方]

1. タルト生地は、材料を混ぜてタルト型に敷き詰めてフォークで穴をあけて、180度で15分焼く。
2. フィリングのクリームは、材料を混ぜて鍋で弱火～中火くらいで、クリーム状になるまで温めます。ある程度冷めたら、冷ましたタルト型に流し込みます。
3. ブルーベリーを飾る。

*甘味控えめの方がおいしいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



栄誉に先だつ恵み

「主を恐れることは知恵の教訓である、
謙遜（けんそん）は、栄誉（えいよ）に先だつ。」
（箴言 15:33）

な なんてすばらしい日でしょう！弟子たちは、イエスが何千もの人々をたった五つのパンと二匹の魚でやしなわれるのを見たばかりでした。奇跡（きせき）によって、このお方はほんのわずかな食物を増やし、みんなが十分に食べて、なおあまるほどでした。彼らは思いました、さあ、このお方を王とするのに完璧なタイミングではないかと！

しかし、その代わりに、彼らは大きな失望でショックを受けました。イエスは彼らになんとお命じになったのでしょうか？ただちに舟で湖の向こう岸へ行きなさいとは？まさか、ありえません！彼らの考えでは、まさに本当の楽しみが始まったばかりなのです！さらに悪いことには、このお方は彼らなしに、後に残られるのでした。忠実な弟子たちは自分たちの主と議論はせずに、したがいました。

彼らは湖の上で舟の中にいましたが、むっつりとして自分たちをかわいそうに思っていました。なんとしばしば、わたしたちは彼らのようになることでしょう。何かすべきだとはわかっている、自分たちがしたくないことをすることになったとき、なんとしばしば、「かわいそうなわたし」と思うのでしょうか。弟子たちが小さな問題で「かわいそうなわたし」と考えるのにいそがしくしていたとき、もっと大きな問題が来ていました。わたしたちが自分たちの思いが、不機嫌な方向へいきすぎるのをゆるしてしまうとき、よくあることです。

この時の問題はあらしでした。ものすごく、とてつもなく大きなあらしです！風はおそろしくふき、波は舟にはげしく打ちつけ、水はばしゃんと